

# 地域と共に歩む

富山商工会議所議員  
インタビュー⑤



「身近に多くの芸術家がいる」  
富山の地の利を生かし文化の向上を

富山商工会議所 常議員  
富山電気ビルディング株式会社  
取締役社長 山田 岩男

1936（昭和11）年、「富山電気ビルディング（電気ビル）」を管理運営するために設立された富山電気ビルディング株式会社。電気ビルは県内初の本格的オフィスビルとして、国内外の賓客をもてなす迎賓館や文化発信拠点として、その役割を担い富山の発展とともに歩んできました。戦後は都心での不動産事業や電源開発工事の関連資材を扱う事業を展開し、経営基盤を築いてきました。創業88年を迎え「地域産業の発展と地方文化の向上に寄与する」という企業理念を現代に受け継ぐ同社取締役社長、山田岩男さんにお話を伺いました。

## 社長就任時はどうでしたか？

「平成21年に58歳で社長に就いてすぐ、都心に新たなオフィスビルの建設が決まりました。都心の不動産事業は収益の柱の一つであり、新ビルは社運を賭けたプロジェクトでした。ところが、土地を取得し工事が始まる直前に東日本大震災が発生。その影響で都心の不動産市況も低迷して先行きが見えなくなりました。それでも後戻りできないと考え、続行を決めました。震災復興と重なり建設資材の入手が難しくなった場面もありましたが、高騰する前に値決めが済んでいたことも幸

いして、何とか予定通りに竣工。テナントも順調に見つけることができました。あのとき躊躇していたら、ビルは建てられなかったかもしれません。大きな転機となりました」

## 今後、富山のために何がしたいですか？

「私は東京で生まれ育ち、大学卒業後に勤めた銀行の転勤でさまざまな土地で暮らしてきて、富山は身近に芸術家が多いと感じてきました。海、山、食材：コンパクトに何でも揃っているところに富山の良さがあります。芸術においても、展示してある作品の制作者に直接出会うような環境は富山ならではの、東京ではあり得ないことです。多くの人にその良さを感じていただく機会として、当社ビルのエントランスに飾る絵画や内装の装飾、レストランで使う和食器などに地元作家さんの作品を取り入れています。地域産業の発展とともに地方文化の向上に寄与することを理念として掲げる企業として、さまざまな形で応援していきたいと思っています」

## 会員の方々へメッセージをお願いします。

「さまざまな局面で人に助けられてきた経験から、1人でできることには限りがあり、人との繋がりをつくっておくことが大切だと感じてきました。会員の皆さんには、富山商工会議所を活用して、幅広い人たちと交流し

て、繋がりをつくる機会にしてほしいと思います。業種は異なっても同じエリアで活動する者同士、似たような悩みを抱えていたり、切磋琢磨することで課題解決の糸口が見つかることもあるでしょう。どこでどんな縁があるかわからないものです。縁は一旦切れても、ひよんなことから再び繋がることもありますので、悪口は言わないようにした方がいいですね」

▶山田社長が就任直後から取り組み、平成25年に完成した「第3虎の門電気ビルディング」。エントランスには富山県ゆかりの洋画家が描いた、松川ペランモチーフにした200号の作品が飾られています。

## 取材を終えて

「人口減少が進み経済的には成熟期に向かうなかで、心の豊かさがますます大切になってくると思います」と語る山田社長。戦中、戦後の困難を乗り越えながら、経済と文化の両面で富山の発展を支え歩んできた企業の取り組みに、今後も期待が膨らみます。



富山電気ビルディング株式会社  
Toyama Denki Building Co., Ltd

設立 昭和11年2月  
富山市桜橋通り3番1号

